令和7年度 手良公民館　平和講座

満蒙開拓青少年義勇軍とは何だったのか

～上伊那の子どもたちは義勇軍としてどのように送り出されたか

日本政府と軍部は、昭和６年満州事変を起こし、翌年の「満州国」建国後間もなく、試験的に成人の満州移民に着手しましたが、問題山積で難航しました。そこで、１３年からは現在の中学３年～高校３年に相当する純真な青少年を、満蒙開拓青少年義勇軍として本格的に送り出すことを始めました。

満蒙開拓青少年義勇軍の上伊那出身者は１３年～２０年に５９７名、実際に満州に渡り活動した者は５２０～５３０名に達しました。義勇軍になった動機は、①「満州に憧れ自ら熱願した..②「教師などによる熱心な説得を受けた」③「義勇軍に決定後断念した級友の代わりに」などでした。しかし、満州へのソ連侵攻によりすべて悲惨な結末となりました。

世界各地で戦争が絶えない現在を生きている私たち。「満蒙開拓青少年義勇軍とは何だったのか」について具体的に知ることを通して、「人と命」「戦争と平和」「教育」についてあらためて考える機会にしましょう。

講師　日本教育史学会 会員
郷土研究誌「伊那路」編集委員

矢澤 静二氏

【手良野口区 東松出身】　元 赤穂東小学校長（H23～24）

令和7年　8月8日（土）

手良公民館　講堂　（受付 13:30～）

時間 14:00 ～ 15:30

～少年の塔・～　〈伊那市伊那公園内・伊那東大社・上伊那招魂社 西〉

太平洋戦争中、満州（現在の中国東北部）を開拓して我が国の食糧不足を補い、併せて満州の治安維持を図るという国の政策に添って、全国で満蒙開拓青少年義勇軍が十代前半（十四、五才）の少年によって編成され、上伊那からの参加者は八百名にも及んだ。

茨城県内原訓練所での研修を終えてそれぞれの地に入植し満州の開発を目指した少年達は、祖国のために尽くそうとする純粋な気持ちで不眠不休の努力を続け激動に耐えて来たのであるが、そのうち九十一名は不幸にして祖国の平和を願いながら異郷の地で帰らぬ人となった。

また国策により学業を休み厳しい勤労に動員された学徒たちを含め、若くして散っていった上伊那郡下に於ける物故者の霊を慰め、永遠の平和を祈念するため、上伊那の市町村会を始め、上伊那教育会他各種団体の協力により、伊那谷のうんだ芸術家、瀬戸団治先生の大作「鍬を持ち彼方大陸より望郷の念にふける少年の像」を昭和三十六年四月、ここに建立した。

上伊那満蒙開拓青少年義勇軍 並 動員学徒遺族会

〈入場無料・申込み不要〉　手良公民館　☎ 0265-72-2755
お問合せ等　FAX　0265-76-0553